

今週（11月7日から11月11日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は積みの終盤に差し掛かり、無担保コールO/N物は徐々に弱含む展開となった。当座預金残高は概ね310兆円台後半で推移した。無担保コールO/N物は▲0.06～▲0.03%の出合いが中心となっていたが、週後半には▲0.08%のオファーが残る場面も見られ、加重平均レートは▲0.04%台から▲0.05%台へと低下した。今積み期間は年金の払いを受けてスタートしていることもあり、ビッドサイドが総じて引き気味となったため、軟調な地合いが終盤に掛けて鮮明になったと考えられる。ターム物に関しては月内エンド物を中心に▲0.035～▲0.03%を軸に取引されたものの、出合いは散発的であった。

固定金利方式の共通担保オペは10日に2W・8,000億円でオファーされ、落札額は1,901億円（期落ち額2,660億円）と減額してのロールオーバーとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.11～▲0.085%程度での取引が中心となった。積みの終盤となり、投資家の資金調達意欲が限定的であったことから、7日から9日にかけては▲0.11～▲0.09%中心の出合いとなった。10日のS/NはTDB3M物の発行要因で業者の売物が増加し、▲.0.09～▲0.085%の出合い。11日のS/Nは短国買入オペが通知されたことや、積みの最終日にあたり投資家の売物が出難いことで、▲0.11～▲0.10%中心の出合いとなった。

SCは個別銘柄では5y125～129、10y336～344、30y48～52、40y9などのカレント銘柄近辺にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、週半ばに米国大統領選挙の経過を受けて若干気配が強まったものの、入札日と重ならなかったこともあり、全般的に落ち着いた展開となった。

新発の入札は8日に6M物、10日に3M物が実施された。6M物の入札はWI取引において▲0.315～▲0.31%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.3066%、最高落札利回▲0.2947%と概ね事前予想通りの結果となった。セカンダリーでは▲0.31～▲0.305%の出合いが見られた。3M物の入札は、アメリカ大統領選の経過を受け、株安債券高となった前日の相場から行って来いの展開となる中、レートの上昇も予想されたものの、WI取引は▲0.2825～▲0.28%の出合いとなり、結果は平均落札利回▲0.2765%、按分落札利回▲0.2661%と順調であった。セカンダリーは3M物で▲0.28～▲0.272%の出合いと小動きであった。

短国買入オペは11日に15,000億円で実施された。オファー額は概ね事前予想通りであったものの、応札額が37,322億円と予想外に多く、平均利回較差+0.012%、按分利回較差+0.011%と小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、5日、10日発行を中心に機械、不動産、商社業態からまとまった発行が見られたものの、週を通してみると閑散地合いで、週間発行総額は5,100億円程度にとどまった。a-1格以上の発行レートは、年内償還物が概ね0%近辺で推移する一方、年末を越える償還物は投資家及びディーラーの積極的な買いから、浅いマイナス圏での推移となった。CP等買入オペの落札結果が▲0.001%近辺での決着が続いていることもあり、以前のような深いマイナスでの決着は見られなかった。

8日に3,000億円で実施されたCP等買入オペは、前回オペ比で500億円の減額になったものの、ディーラーの応札姿勢もそれほど強くなく、応札額6,065億円と少な目で、平均落札利回・按分落札利回共に▲0.001%と落ち着いた結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
11/7（月）	17,177.21	△ 0.055	104.44	△ 0.044	△ 0.106	3,167,100
11/8（火）	17,171.38	△ 0.070	104.45	△ 0.044	△ 0.105	3,190,900
11/9（水）	16,251.54	△ 0.080	101.90	△ 0.049	△ 0.094	3,200,600
11/10（木）	17,344.42	△ 0.049	105.90	△ 0.050	△ 0.093	3,151,500
11/11（金）	17,374.79	△ 0.034	106.70	△ 0.050	△ 0.092	3,164,200

来週（11月14日から11月18日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/14 (月)	名古屋での経済界代表者との懇談にて黒田総裁講演 7-9月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 9月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50)				
11/15 (火)	9月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)	5Y 24,000億円 11/17発行	国有限野借入 662億円 11/25借入		10月の米小売売上高 9月の米企業在庫 7-9月期のユーロ圏GDP2次速報 10月の英消費者物価指数
11/16 (水)		TB1Y 25,000億円 11/21借入			10月の米生産者物価指数 10月の米鉱工業生産・設備稼働率
11/17 (木)		TB3M 44,000億円 11/21発行	20Y 11,000億円 11/21発行	交付税借入 10,500億円 11/28借入	10月の米消費者物価指数 10月の米住宅着工件数 10月のユーロ圏消費者物価指数改定値
11/18 (金)					

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/14 (月)	1,000	▲ 24,200	▲ 23,200	全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 2,700 ▲ 500	1,900 300	▲ 1,000	▲ 24,200	源泉税揚げ 社会保障等 TB3M発行▲44000償還36100 30Y発行▲8000
11/15 (火)	2,000	▲ 6,000	▲ 4,000	国債買入 短国買入		11,200 15,000	26,200	22,200	2Y発行▲23000償還18300 個人向け3・5・10Y発行▲2,000 個人向け3Y償還800
11/16 (水)	1,000	▲ 1,000	0				0	0	労働保険料揚げ
11/17 (木)	▲ 1,000	▲ 25,000	▲ 26,000				0	▲ 26,000	5Y発行▲24000 交付税借入▲10500期日10500
11/18 (金)	▲ 2,000	2,000	0	CP買入		3,000	3,000	3,000	
週 間 合 計	1,000	▲ 54,200	▲ 53,200	—	▲ 3,200	31,400	28,200	▲ 25,000	

11/14は日銀予想、11/15以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は14日のTB3M発行超過、30Y発行、源泉税揚げ、17日の5Y発行、でそれぞれ大幅不足日となることが予想される。週半ばに積みの最終日と新積み期間のスタート日があり、足元金利の動向が注目される。

短国市場は、16日に1Y物、17日に3M物の入札が予定されている。オペのオファー額が前月に比べて減少していることから積極的に買い進む動きは見られないと思われるものの、▲0.3%から▲0.2%台後半程度で堅調に推移している事もあり、様子見の展開が続くと考えられる。

CP市場は月末に向けて発行が活発になることが期待される。15日にはCP等買入オペが3,000億円でオファーされる予定となっている。

主要なイベントとしては、14日の7-9月期のGDP1次速報、17日の10月の米国CPIなどが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入